

科目名 看護形態機能学 時間割表記名 看護形態機能学	配当時期 1 年次 前期 単位数 1 単位 時間数 30時間(16回)	講義担当者 松野健二郎 隈部直子	
事前学習内容 解剖生理学を踏まえて授業に参加する。4 回～15 回の講義では、予めハンドアウト資料を配布し、ロイロノートには、資料記入済と教科書記入済のお手本ファイルを upload する。それらを予習課題として、資料と教科書に書き込んだ上で講義に望む。解剖学の用語は難解なものが多いので、予習すると用語に親しみやすくなり、講義が理解しやすくなる。			
科目全体のねらい・授業目標 看護実践に活かすための人体の構造と機能について学ぶ。解剖生理学で学んだ人体の構造と機能を日常生活行動から「身体」を理解し、看護実践に活かす知識を習得する。どのような身体の構造と機能を使って日常生活を営んでいるかを学び、さらに疾病によって生活行動にどんな障害が起こるかを説明することができる。			
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1	脈拍・血圧の生理 脈拍の生理学的意味、心臓拍動の調節、血圧とは、血圧の調節	講義	テキスト ①②
2	呼吸の生理 呼吸とは、呼吸運動の調節、肺気量、ガス交換	講義	テキスト ①②
3	栄養の生理 食欲、食行動、咀嚼・飲み込む、消化・吸収 排泄の生理 排泄行動、尿の生成、尿意、排尿のしくみ、便意、排便のしくみ	講義	テキスト ①②
4	情報の需要と処理 1) 神経系の概論・発生	講義	テキスト ②
5	2) 中枢神経系(1) 脳と脊髄	講義	テキスト ②
6	3) 中枢神経系(2) 脳の高次機能	講義	テキスト ②
7	4) 末梢神経系 脳神経と脊髄神経	講義	テキスト ②
8	5) 中枢神経系(3) 伝導路・反射	講義	テキスト ②
9	6) 視覚	講義	テキスト ②
10	7) 聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚	講義	テキスト

			②
11	8) 皮膚・自律神経系	講義	テキスト ②
12	9) 痛覚・体温	講義	テキスト ②
13	身体機能の防御と適応 1) 生体の防御機構概論・免疫系(1)リンパ節	講義	テキスト ②
14	2) 免疫系(2)脾臓・骨髄・胸腺	講義	テキスト ②
15	3) 免疫系(3)免疫病と感染免疫	講義	テキスト ②
16	試験 45 分	筆記試験	
受講上の注意 ○1～3 回目は、基礎看護学技術のバイタルサイン測定、日常生活援助技術Ⅰの食事・排泄の講義の前に行う。本時の学びを、看護技術に活用する。			評価方法 筆記試験 レポート
使用するテキスト ①菱沼典子 看護形態機能学 第4版 日本看護協会出版会 ②系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 参考文献 ①阿部正和 看護生理学 生理学よりみた基礎看護			